

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室
URC資料室だより NO. 120 平成30年11月号



◆URCニュース

樗木武前理事長が秋の叙勲(瑞宝中綬章)を受章されました！

URC 前理事長で、9月25日に実施した今年度第2回ナレッジコミュニティ「コンパクトシティと言われる福岡の街を支えるインフラ整備について」のスピーカーを務められた樗木武先生(九州大学名誉教授)が、この度叙勲を受けられました。

誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

ナレッジコミュニティの開催を機に樗木先生の著書を展示していますが、引き続き展示を行いますので、この機会に是非ご一読ください。

URC 設立30周年のナレッジコミュニティの講師をお願い

いたときに、樗木先生は今年、日本列島が一つに繋がってから30年でもあることを教えてくださいました。雑誌『運輸と経済』10月号の「特集：海峡を超える一四島が繋がって30年」には、「国土の要として悠久の時を刻む関門海峡」を寄稿されています。お読みになり、30年の時の重みを感じてみませんか。



写真:URC 撮影(山崎三枝 司書)

①平成30年度・第2回 都市セミナー「eスポーツの今と未来」を開催します。

世界におけるeスポーツの競技人口は、1億3千万人を越えています。日本においても、eスポーツの台頭は目覚ましいものがあります。2019年秋の茨城国体にあわせて「都道府県対抗eスポーツ大会」が開催され、オリンピックにおいては、eスポーツが正式種目として採用される可能性も示唆されています。

今回の都市セミナーでは、日本eスポーツ連合副会長の浜村弘一氏、(株)レベルファイブ代表取締役社長/CEOの日野晃博氏にご登壇頂き、日本のゲーム業界の現状を踏まえながら、今後eスポーツによって、コミュニケーションがどのように変化していくのか、また、都市や地域の活性化への期待、将来展望などについてもお話し頂く予定です。

eスポーツに関心をお持ちの方はもちろん、eスポー

ツのをご存知ない方も、eスポーツへの理解を深める良い契機になればと開催するものです。開館1周年を迎えた「福岡市科学館」にて、皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

セミナーの申込み方法や詳細内容等は、URCのホームページや告知チラシをご覧ください。申込み締め切りは、11月20日(火)当研究所必着です。

- 日時：平成30年11月22日(木)
13:30~16:30 (開場12:30)
- 場所：福岡市科学館6階「サイエンスホール」
(福岡市中央区六本松4-2-1)
- 定員：300名(先着順)、参加無料

(山本美香 主任研究員)

②日韓海峽圏研究機関協議会 2018年定期総会・研究報告会に参加しました。

10月17日から18日の2日間、韓国の統営(トンヨン)市において、日韓海峽圏の地域の発展や相互理解に寄与することを目的とする「日韓海峽圏研究機関協議会」の第25回定期総会および研究報告会が開催されました。初日の定期総会では、2017年度の事業報告の承認と、次期の役員機関として、会長に慶南発展研究院、副会長に長崎経済研究所が選出されました。



討論会の様子

さらに、本協議会における2018年度の研究テーマとして、「人口問題と地域活性化Ⅲ」が採択されました。本協議会のメンバーは、2016年度から本テーマに取り組んでいます。日韓両国はともに少子高齢化に直面しています。

本協議会は、そうした状況下において、地域や都市を活性化していくための考えや方法を、日韓双方で学びあうよい機会となっています。

同日夜の歓迎晩餐会には慶州南道の副知事も出席されました。本協議会のような民間の交流を通じて、日韓関係がさらに深まることへの期待の言葉が述べられました。

2日目の研究報告会では、「人口問題と地域活性化Ⅱ」をテーマに研究発表と討論が行われました。セッションⅠでは、日本側より、「日本における女性の地域間移動パターンと影響要因」(田村一軌上級研究員 アジア成長

研究所)、「ニュータウン地域における高齢化の現状」(竹下和希研究員 九州経済調査協会)、「人口減少社会における地域コミュニティ組織の再編—佐賀市を事例に」(五十嵐勉教授 佐賀大学)の3つの発表が行われました。

続くセッションⅡでは、韓国側より、「人口時代における生活圏(基礎行政単位)コミュニティの革新案」(関賢貞責任研究委員 光州全南発展研究所)、「高齢者配慮型産業の発展戦略」(金道管経済雇用研究室長 釜山発展研究所)、「人口減少・低成長時代の蔚山(ウルサン)の都市管理の方向性についての研究」(李姪盈研究委員 蔚山発展研究所)の3つのテーマで発表が行われました。私が座長を務めた、セッションⅡの討論会では、日本側から活発な討論が行われました。

会議が開催された統営市は、韓国の英雄、李舜臣将軍のゆかりの地でもあり、韓国のナポリと称される美しい都市でした。研究報告会終了後は名物である牡蠣料理も堪能し、参加者同士で親睦を深めました。本協議会の主催者を務められた、慶南発展研究院の皆さまに、深くお礼申し上げます。

なお、来年度の協議会は、10月上旬に長崎県で開催される予定です。



統営市の朝日

写真:URC 撮影(中村由美 研究員)

③福岡市国際視察研修受入報告

2018年10月、韓国から2団体、フィリピンから1団体、計65名が福岡市の住み良いまちづくりに関する取組を学びに来ました。各団体は、市民福祉プラザ、西部水処理センターを視察しました。市民福祉プラザでは、福岡市の高齢者及び一般福祉に関する取組みと施設の概要説明が行われて、西部水処理センターでは下水処理に関する取組みの説明が行われました。各視察の現場では、「福祉に関する最先端の取組みについて学べてとても有益だった」「大変有意義な見学で、ディスカッション出来て良かった」など、満足度の高い声が上がっていました。

今年度の福岡市国際視察研究受入事業は、今月で約7カ月となりました。その間、様々な国から前年同月の実績を上回る約900名が福岡市を訪れました。各訪問団の訪問目

④学会発表等報告

9月7日日本計画行政学会第41回全国大会研究報告B・ワークショップ、第4会場「地方自治体国際戦略による地域イノベーション創出の可能性」において、中村由美研究員がパネリストを務めました。

10月20日日本都市学会第65回大会「成長する都市」第1会



韓国：協同老人福祉センターの市民福祉プラザ訪問

的は違っていました。住み良いまちづくりのため、視察研修プログラムに熱心に参加していました。訪問団の種類も自治体、大学、民間などで多様でした。このような、各都市が抱えている問題をみんなの力で解決しようとする動きは、これからも増え続けると思います。

写真:URC撮影(李英雄 国際視察研修担当)

場/大会テーマにおいて久保隆行フェローが「国家戦略特区指定後の福岡市の成長と今後の課題—海外類似都市との比較検証—」を中村由美研究員が「福岡市の都市の成長を支える女性人材」を発表しました。この2つの発表資料は、資料室でご利用いただけます。(山崎三枝 司書)

◆URC資料室ニュース

①蔵書点検のための閉室のお知らせ

資料室は11月26日月曜日から12月7日金曜日まで、蔵書点検のため閉室します。休室期間中は、新聞を含む閲覧、貸出、問合せへの対応等できませんのでご理解、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

なお、今回は図書を対象とした蔵書点検です。貸出されている図書をお持ちでしたら、11月22日木曜日までに返却くださいますようお願いいたします。返却は、福岡市役所1F情報プラザの返却ポストをご利用いただけます。

②平成30年度 第3回 ナレッジコミュニティ

「福岡市経済の平成期30年を振り返って」参加者募集中!

8月1日、当研究所の前身である財団法人福岡都市科学研究所が設立されてから30周年を迎え、今年度のナレッジコミュニティでは、福岡市のこれまでの30年の変化を様々な切り口で振り返るシリーズを、4回に分けて行っています。

シリーズの第3回目は、福岡市の30年の経済の変化について岡田允元特別研究員にご講演いただきます。

福岡市が元気な都市として注目される理由は、活発な経済活動によるところが大きいと思われます。

長年福岡市をはじめ九州内自治体の経済政策を研究された岡田氏のお話から、平成期経済の変化を学び、これからの展望について、一緒に考えてみませんか。

【日 時】平成30年12月14日(金)
15:00~16:30(受付開始 14:30)
講演・意見交換

【会 場】URC 会議室 福岡市中央区天神 1-10-1
福岡市役所北別館 6階

【定 員】30名 ※先着順受付 参加費無料

【お申し込み】Eメール(library@urc.or.jp)または
FAX(092-733-5680)で、①氏名・②所属・③電話番号・④Eメールアドレスをご記入のうえ、お申し込み下さい。(メール件名:平成30年度 第3回 URC ナレッジコミュニティ参加希望)

【締め切り】12月11日(火) 必着です。

◆所員雑感 “No sports, No life” スポーツで盛り上がりを見せる福岡

日本(福岡)では、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のFINA世界水泳と3年間連続の一大スポーツイベントを控えています。今回の「fU+」では、“No sports(ノースポーツ)・No life(ノーライフ)”と題して、この機会に、市民の皆さまにスポーツを観戦してもらい、体験したくなるような特集を組んでいます。

取材を進めていく中で、驚いたのは、やはり福岡マラソンの完走率の高さです。なんと、〇〇%!!(ごめんなさい、二桁ということだけしか、ここではお伝えできません。)毎年応募されているランナーや応募チャンスの多さに、どれほど楽しみにされているのかも知ることが出来ました。

また、FINA世界水泳では、ハイダイビングという新しい種目が加わり、見ている方がハラハラ、ドキドキです。

そして、最近ニュースでも聞く新スポーツ、“eスポーツ”って、何でしょう? 詳しくは、2019年2月に発行(予定)される「fU+19号」に掲載されています。少し先の話になりますが、現在編集途中ですので、楽しみにお待ちください!

(足立麻理子 総務課)



「fU+19号」のロゴデザイン(案)

◆特別寄稿 *一人一花の楽しみ* 第9回 11月 篝火花(シクラメン)

福岡市民157万人が一花植えたら157万本の花溢れるフラワーシティになる。市長の旗振りで始まった「一人一花運動」は、はや11カ月を迎える。银杏並木が金色一色に染まる天神・博多は、ハロウィンが終わり、クリスマス・イルミネーション点灯式など、一気に年末ムードに塗り替わる。そんな中、鬢付油の香りと、お相撲さん達の姿がチラホラ。九州場所が始まる。11月は格別大好きな月だ。

早いもので・・・2018年もあと60日余り、平成年号最後のクリスマス、年末となり冬支度が始まる。

さて、11月の「一人一花」は篝火花(シクラメン)をご

紹介したい。サクラソウ科シクラメン属の多年草。原産地は地中海地方で学名はCyclamen persicum。5枚の花弁が強く反り返って、花は下向きに咲く、特殊な花姿で私たちを魅了する。花言葉は「はにかみ、内気」「清純・思慮深い」など花の咲き様からかなあとと思われる。日本には明治期にイギリスから渡来、和名



新品種：写真提供
日比谷花壇

の篝火花(かがりびばな)は、花姿が篝火に似ているので付けられたとか、なるほど優美な花名だ！名付け親は植物学者牧野富太郎先生。それまでは英名を直訳した「豚の饅頭」と呼ばれたそうで、私たち花好きは「篝火花」としか呼ばない。花色、品種も多様で園芸種ではトップクラスの生産量、流通量を誇る。球根は茎が変形したもので分球しない。生産者は種を採取して育苗するが最近では分業でプラグから育苗する農家も多い。日本での流通量は春のカーネーションに次いで多い冬の定番人気種だ。知り合いの辻園芸さんも11~12月はハウスを開放したシクラメン祭りでは終日行列の賑わいを見せる。一面のシクラメンに囲まれ絶景の中でお気に入りの一鉢を見つけるのも楽しい。これほど個性的に花姿が違うのも珍しく、購入時は是非、真剣に花と向き合って花の顔を見て選んで欲しい。本当に「はにかんで」いますから・・・また、シクラメンは1葉1花と云い、葉っぱの数だけ花芽を付けるので葉組の綺麗な葉数の多いものを選ぶのも大事なポイント。私は母と叔母への冬ギフトは「篝火花の6号鉢」を30年来贈っているが、毎年、新品种が紹介され品種改良の凄さとクオリティの高さにも驚かさ



篝火花の世界 演出吉野ヶ里公園 写真提供：執筆者

れる。小椋佳、布施明コンビの「シクラメンのかほり」大ヒット以来、人気急上昇で未だに衰えを見せないシクラメンパワー万歳！！一鉢見るもよし、一面の花を見るもよし、清純で見飽きない推奨花。

ここで、ガーデンシクラメン(ミニシクラメン)のご紹介。冬のガーデニングの主役の座を瞬間に勝ち取った。花選びに迷った時、一鉢入っただけで寄せ植えの格上げをしてくれる頼もしい一花だ。

花の育て方、管理は意外と簡単。温度管理と水やりがポイント、室温は10度~15度、野外は霜が続かなければ寒くて大丈夫。水やりは控えめ。鉢花は底面給水が基本で、寄せ植えは根塊に直接水をかけない様にする。花殻は茎の根元をねじりながら上に引き抜くと簡単に茎ごと抜ける。花姿が乱れたら、蕾が中心に向くように、定期的に葉組を行う。1級品、特級品と普通品の違いは生産者の葉組の回数。苗の段階から何回葉組に手をかけるかで花の顔・品質が全く違って来る。一方、葉姿が乱れたお買い得品は、葉組が出来ないほど荒れているものがほとんどで本当のシクラメンの美しさとは程遠いものも少なくない。今更、葉組をしても手遅れで、手に負えないので注意。毎年花を咲かせてくれるので頑張って特級品をお傍に置いて欲しい。子育てに似ているのか否か、毎日様子を見て、葉姿を整えてあげると中心にすっと美しい花たちが外向きに勢揃いで咲いてくれる。ハートの葉姿が廻りを小さい葉から大きい葉まで順々に外側に広がる。まさしく、生産者の育て方、管理が怖いほど判る花で、花の善し悪しが素人でも目視で簡単に判別できる有難い花でもある。

11月に入ると、フラワーショップ、デパート、ホームセンターなどで最前線に並ぶシクラメン達、今年は、厳しい親の目で花たちの育ち方を観察してみるのも面白い。そしてますます好きになる。

執筆：福博：花まち研究会 会員 きむらみえこ(環境演出家®)

編集後記

気持ちの良いお天気に恵まれ、特別寄稿連載中のきむらみえこさんの作品を観にハウステンボスに行ってきました。きむらさんの「Happy 照らす」と名付けられたウェディングの演出は世界フラワー・ガーデンショーのガーデン部門ベストプラクティカル庭園賞を受賞されていました。メイン会場のパレスのガーデンもそれぞれに楽しめて、パレス内部には世界各国からの花の演出家による作品が所狭しと展示されていて、圧倒されました。他の花まち研メンバーは、山口夢はな博を見学されたそうで、土曜日に行かれたメンバーに「人の多さに驚かされた。」という報告がありました。平日に行かれたメンバーからの報告を楽しみに待っているところです。合わせて行かれた「ときわ動物園」や「ときわ公園」はべた褒めでした。

ところで、ソフトバンクホークス、今年も強かったですね。日本シリーズ優勝おめでとうございます。主力選手が怪我等で次々といなくなる中、代わりに出てくる選手が次々に活躍する。凄いです！心配していた抑えも、ちゃんと成長していました。「日本シリーズが思いのほか早く終わってしまったので寂しい。広島にもっと頑張ってもらいたかったな。」と言うと「クライマックスシリーズからの連戦でホークスの選手はみんな疲弊している。ギリギリで勝てたんだよ。」と筋金入りホークスファンの姉の言葉。なるほど、「本当のファンは選手の体のことまで考えているんだ。」と感心しました。私は楽しめればいいという程度で・・・野球が終わりました。次はフィギュアスケートとVプレミアリーグを楽しみます。(崎)